

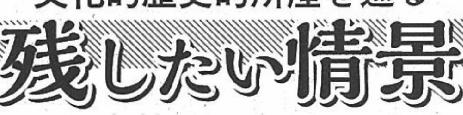
「第10回まち・ひと・しごと創生会議」の安倍総理による冒頭挨拶で、空き店舗等有効活用やまちの再生を図ることについて、以下の事例紹介があつた。

(昭和39) 年から半世紀以上
にわたり、油津地区に所在す

る天福球場で開催され、熱烈なカープファンが県内外から応援に駆けつける。

や上水道の敷設など都市基盤の整備も進められた。油津地区の商業施設等の

20店舗誘致を目指し再生にはずみ



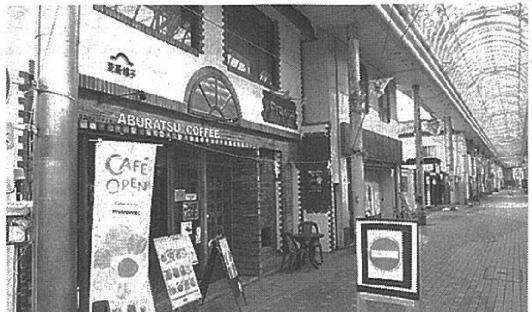
第30回 宮崎県日南市

卷之三

一般財団法人 日本不動産研究所

飫肥（おび）藩の主要港として栄え、歴史的な建造物が残っており、過去には「杉は山から鮪は海に」といつも油津よいところともうたわれた。油津は、飫肥杉（約400年前に飫肥藩の家臣たちが藩財政の窮乏を救うために山野に杉を植林したのが始まりとされる）を国内外に積み出す基地として、さらに、マグロなどの漁業基地として大正時代から昭和初期にかけて特に賑わいを見せた。油津港に近接

立地状況をみると、JR油津駅の北東方に近接した位置に、日南市内の中心的な商業施設として60（昭和35）年に設立された「日南山形屋」が立地し、その後に油津商店街が広がっている。このうち油津地区の賑わいを商業面で支えてきた油津商店街では、市内的人口減少傾向や宮崎市などの買い物客の流出などが見られるなか、歩行者通行量や小売販売額が減少し、空



にぎわい取り戻した「油津商店街」

油津商店街が存する宮崎県日南市は、宮崎市の南部に位置し、「鶴戸神宮」など風光明媚な観光施設を擁しておらず、さらに、広島東洋カープによる春季キャンプが、64

する古い町並みのなかに残っている油津赤レンガ館や杉村金物本店などの建物群や、堀川運河にかかるアーチ型の石橋（1903年完成の堀川橋）からも、過去の雰囲気を味わうことなどができる。

(平成25) 年4月に、中心街地活性化事業の一環で
店舗に4カ年で20店舗の新規出店を実現する
「ミックスサポート」を公募要件にテナントとして
このような中、日南市は
き店舗が継続的に増加してい

問合せが増加をみせ、空き店舗だった建物にIT関連企業が入居するなど、地元での雇用増加という面からも望ましい状況となつた。

人口倍増の時代も

このように飫杉とマグロの取引で栄えた油津には、仕事を求めて多くの人が集まり、大正9年から昭和15年の間にかけて人口が約2倍に増加し、それに伴って軽便鉄道

る活動が開始された。14(平成26)年3月に、商店街再生事業に継続性をもたせるために(株)油津心援団が設立され、かつて市民の憩いの場となっていた喫茶店をリニューアル

向にあつた油津商店街は、「若者によるチャレンジの場」といふ新たな側面を有する商店街に生まれ変わつたのである。(宮崎支所／不動産鑑定士・西村哲治)



油津港に近接する古い町並
に残る「油津レンガ館」右
アーチ型の「堀川橋」(下)